



2019年8月13日

CISに中国の風

公益財団法人 国際通貨研究所
客員研究員 菅野哲夫

なぜ、今 CIS か？

1991年12月8日、ロシア、ウクライナ、ベラルーシの3カ国首脳が「ソ連邦の消滅と緩やかな国家間協力を目指す独立国家共同体（CIS）の創設」を宣言して以来約30年が過ぎようとしている。この間、CISは政治・経済面等に亘る連携強化を進めてきたが、最近の状況はどうなっているのだろうか。

本年4月、第2回「一带一路」国際フォーラムが北京で開催され、150余りの国や92の国際機関から約6千人が参加した。これまで久しく脚光を浴びる事もなかった「かつてのシルクロード地帯」を含む中国から欧州までの広大な地域に、参加各国との「共同による建設」を基本とし、当該地域を富ませるための構想実現についての話し合いが行われた。日本も、97年頃、橋本政権が「シルクロード外交」を展開、アジア開発銀行なども動かし、中央アジア諸国への積極的な経済支援を行った経緯もあり、中国の動きに無関心ではいられない。

本稿は、「CIS憲章の批准」基準を満たしたCIS加盟9ヶ国（狭義）を対象とし、準加盟国扱いのウクライナ、トルクメニスタン2カ国も加えた11カ国（広義）の状況にも触れてみた。以下、中国の台頭がCISにどのような影響を与えるのか、現在の国際的地位、国情や相互関係を概観したうえで、若干の将来像について私見を述べてみたい。

CISの国際的位置は？

狭義のCISの世界に占めるシェアを見ると、面積で15.5%、人口で3.1%、名目GDPで2.3%となっている。また、一人当たりGDPでは192カ国中65位のロシア（CIS中トップ）が11,327米ドル、175位のタジキスタン（同最下位）が826米ドルとなっている。

CISは、かつて中国から北上して、モンゴルやカザフスタンの草原（ステップ地帯）を通り、アラル海やカスピ海の北側から黒海に至る、最も古いと看做されるかつての交易ベルト地帯に存在するが、発展度合いの遅れは否めない。

CIS各国の政治・経済概況は？

ロシア：プーチン大統領の実質統治はすでに19年、さらに任期は24年まで。クリミアを巡るG7の経済制裁や「国民の閉塞感」の高まりが大きな不安要因。現状、1.6%程度の成長で、公的債務残高は約15%(対GDP比；以下同じ)と低位、外準は約4,600億米ドル強の水準で、ファンダメンタルズはそう悪くはない。

アルメニア：親口的なサルキシヤン大統領の任期が 25 年迄続く。ドル化経済、貧困層（国民の 30%）対策など喫緊の課題山積。現状、4%弱程度の成長で、公的債務残高は 55%程度とかなり高く、外準は約 22 億米ドルの水準。

アゼルバイジャン：03 年以降アリエフ大統領治下ですでに 16 年、さらに任期は 25 年まで続く。石油・ガスへの依存過多、汚職・資金洗浄など問題山積。現状、3%程度の成長で、公的債務残高は 46%程度、外準は約 64 億米ドルの水準。

ベラルーシ：ルカシェンコ大統領治下ですでに 25 年、さらに任期は 20 年まで続く。ロシアと EU の狭間でロシア依存が根強い。統制経済のもと、利権がまかり通る無法状態が蔓延。現状、3%弱程度の成長で、公的債務残高は約 57%程度とかなり高く、外準は約 71 億米ドルの水準。

カザフスタン：90 年から 29 年間大統領を務めたナザルバエフが辞任し、19 年 6 月選挙でトカエフ新大統領が誕生。前大統領の院政が続くなか、資源や人口増に恵まれるが、資源依存、インフラ未整備、腐敗問題等山積。現状、4%弱程度の成長、公的債務残高は 18%程度と低位、外準は約 309 億米ドルの水準。

キルギスタン：17 年 11 月、ジェエンベコフ大統領が就任。鉱物資源に恵まれるが、政治・社会の不安定、隣国との国境・水源紛争、粗悪なビジネス環境など多くの問題を抱える。現状、4%弱程度の成長で、公的債務残高は 15%程度とかなり低く、外準は約 21 億米ドルの水準。

モルドバ：憲法には中立主義が明記され、外交目標は EU 加盟だが、エネルギーはロシアに大きく依存。ドドン大統領のもと、サンドゥ首相が取り仕切る。農業に多く依存し、ヨーロッパの最貧国のひとつ。賄賂、トランスニストリア紛争問題を抱える。現状、3.8%程度の成長で、公的債務残高は 42%程度、外準は約 20 億米ドルの水準。

タジキスタン：ラフモン大統領が 94 年以降既に 25 年間君臨。さらに 16 年の憲法改正により、その任期制限を撤廃した。鉱物資源に恵まれるが、闇経済、インフラ整わず、貧困・失業問題山積。現状、6%弱程度の成長で、公的債務残高は 54%程度とかなり高く、外準は約 13 億米ドルの水準。

ウズベキスタン：16 年 12 月選挙でミルジヨエフ大統領誕生（任期 5 年）。人口 32 百万人で、資源にも恵まれるが、統制経済、失業、闇経済、一次産業依存など問題山積。現状、5%強程度の成長で、公的債務残高は 22%弱とかなり低く、外準は約 270 億米ドルの水準。

トルクメニスタン：07 年 2 月選挙でベルディムハメドフ大統領誕生。22 年までの任期。世界 4 位のガス埋蔵量を誇るが、汚職や権威主義の横行、国際テロ組織との繋がりなどの問題を抱える。現状、6%程度の成長で、公的債務残高は 33%強と低位、外準は約 136 億米ドルの水準。

ウクライナ：19 年 4 月に行われた決選投票で、ポロシェンコ大統領を破って、タレント候補ゼレンスキー氏が当選した（任期 5 年）。新大統領は、民政の実現や汚職撲滅を掲げ圧勝したが、クリミア紛争や東部の親口武装勢力問題を抱え、これら問題解決が焦眉の急である。現状、2.9%程度の成長で、公的債務残高は 68%と過重の域に達し、外準は約 208 億米ドルの水準。

CIS 相互の経済関係と開発資金の調達先は？

貿易：世界ベースの輸出への貢献度をみると、ロシアが 2.3%、カザフスタンが 0.3%、ベラルーシが 0.2%、他は 0.05%以下で、CIS9 カ国合計でも 3%弱を占めるに過ぎない。

GDP 比率で見た輸出依存度は、ロシアが 27%強、アゼルバイジャンが 47%強、タジキスタンが約 16%、9 カ国平均で 29%強程度となっている。ちなみにロシアと CIS との輸出入取引のいずれも 10%程度を占めるに過ぎない。

直接投資：17 年の世界の直接投資総額は 1 兆 4298 億米ドルで、内訳は CIS に対し 394 億米ドル (2.8%のシェア)、そのうちロシアへは 253 億米ドルで 1.8%のシェア、ロシアを除く CIS は 141 億米ドルが流入した。ちなみに中国は一国で 1,363 億米ドルを受け入れている。

商業銀行取引：CIS の銀行中飛び抜けて大きな存在がロシアのズベルバンクであるが、総資産 (17 年時点) ベースで、世界 66 位程度に過ぎず、日本のりそな銀行並である。ロシアの営業銀行数は 517 行程度に上るが、銀行インフラが未成熟で、経済全体に対する貢献度が小さい。これは他の CIS 諸国の銀行にも共通する問題である。

ODA、国際銀行取引：CIS 諸国はおしなべて、経済発展に向けられる自国資金や対内直接投資に限りがあるなかで、各国からの援助や地域国際銀行の資金提供に依存せざるを得ない事情がある。たとえば、日本からの広義の CIS (除くロシア) に対する無償・有償・技術協力を併せた経済援助額の累計は 17 年 3 月末時点で 1 兆円強となっている。また欧州復興開発銀行は、ソ連邦崩壊後の混乱回避のため 91 年に設立され、広義の CIS にとって重要な資金源のひとつであるが、14 年にクリミア問題勃発後、ロシアに対しては新規投融資をストップしている。このほか世界銀行、アジア開発銀行、日本の国際協力銀行、ユーラシア開発銀行なども存在し、今般これらに加えアジアインフラ投資銀行が、「一帯一路」構想を掲げ、中国の資本と技術をもって CIS に乗り込むことになる。

CIS にとって「一帯一路」は順風になるか？

2019 年 6 月 5 日、中国の習国家主席はモスクワで行われた中ロ国交樹立 70 周年記念大会で、「両国関係発展の戦略的方向に沿い、共通の利益のために、『一帯一路』の共同建設とユーラシア経済連合との結び付きを強め、中ロ互惠協力の新たな枠組みを構築したい」旨を強調した。CIS にとって、中ロ関係が良好下で、中国の資本と技術を享受できれば好都合だ。実際、米中の貿易問題、欧米主要国の対ロ経済制裁問題など頭の痛い問題もあって、CIS にとって「万事好都合」とは限らない。しかし、中国の資本と技術を取り入れ、自国の発展のインフラを整備するという面では大きなチャンスに違いない。CIS 諸国にとって、不安と困難があるだろうが、自国の将来に繋がるインフラ造りの良い機会と捉え、どん欲に挑戦してみる価値があるように思われる。

以 上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しく申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。